

【三保谷・出丸・ハッ保・小見野小 教職員用】

アンケートNo.4

「統合対象校間の交流」「小中連携・交流」に関するアンケート

— 「統合対象校間の交流」に関するアンケート —

アンケート回答者数 28人

問1 どのような交流事業を実施しましたか？

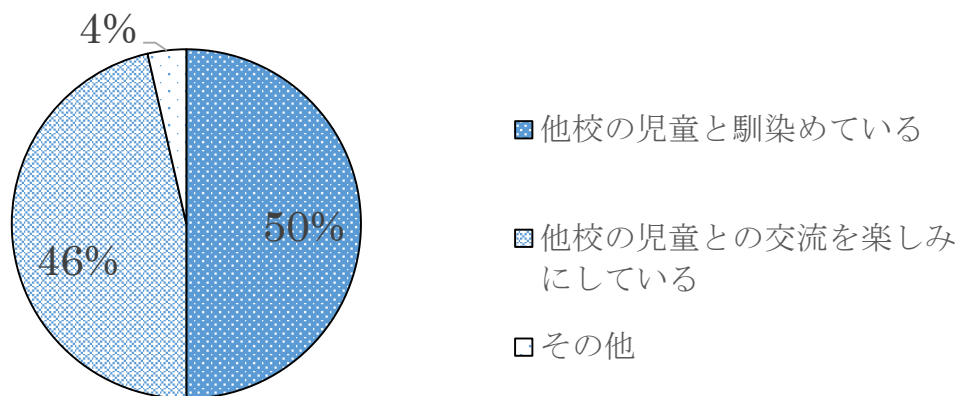
→別紙参照

問2 交流事業を実施して、自校の児童に、特にどのような反応・傾向が見られますか？

該当する番号に○をつけてください。(1つのみ)

- ① 他校の児童と馴染めている
- ② 他校の児童となかなか馴染めていない
- ③ 他校の児童との交流を楽しみにしている
- ④ 他校の児童との交流を嫌がっている
- ⑤ 分からない
- ⑥ その他 ()

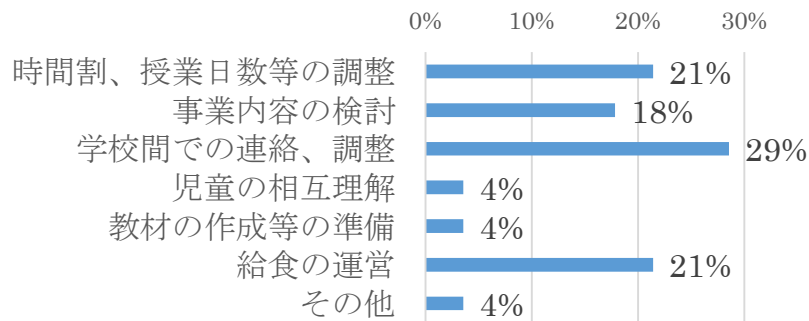
問2 回答者数 17人



問4 交流事業を実施するうえで、大変だったこと、また難しかったことは何がありますか？該当する番号に○を付けてください。(1つのみ)

- ① 時間割、授業日数等の調整
- ② 事業内容の検討
- ③ 学校間での連絡、調整
- ④ 児童の相互理解
- ⑤ 児童の安全確保
- ⑥ 教材の作成等の準備
- ⑦ 給食の運営
- ⑧ その他 ()

問4回答者数 28人

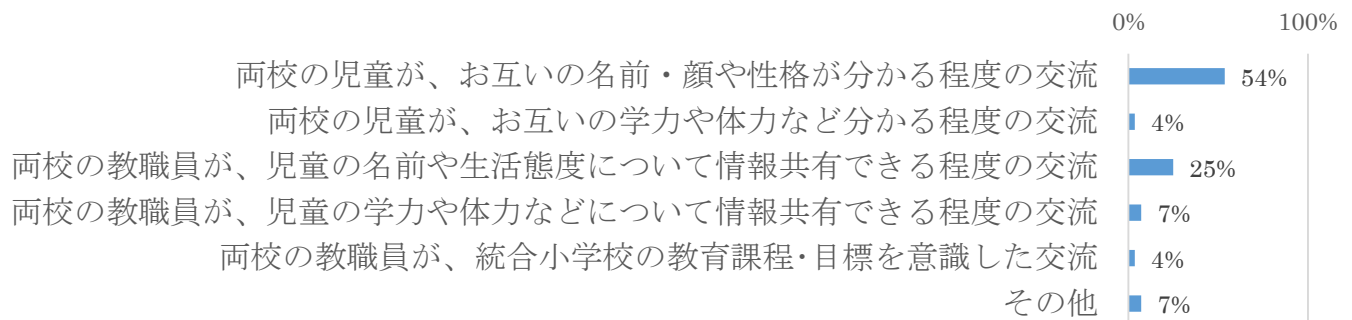


問5 統合対象校間で交流事業を実施する目的は、平成30年4月以降に統合小学校がスムーズに運営されるためですが、そのため、統合対象校間の児童・教職員が、どの程度の交流を図る必要があると考えますか？

該当する番号に○を付けてください。(1つのみ)

- ① 両校の児童が、お互いの名前・顔や性格が分かる程度の交流
- ② 両校の児童が、お互いの学力や体力など分かる程度の交流
- ③ 両校の教職員が、児童の名前や生活態度について情報共有できる程度の交流
- ④ 両校の教職員が、児童の学力や体力などについて情報共有できる程度の交流
- ⑤ 両校の教職員が、統合小学校の教育課程・目標を意識した交流
- ⑥ その他 ()

問5回答者数 28人



問6 問5の回答を踏まえてお答えください。

来年度、何の教科で、どのような交流を行うのがよいと考えますか？

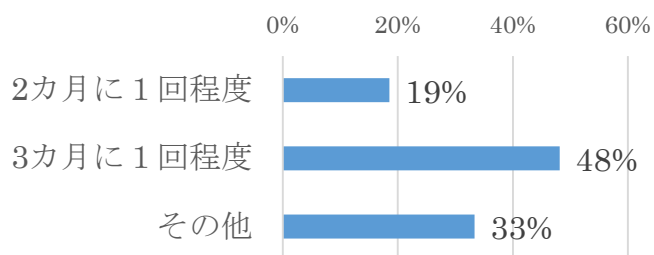
→別紙参照

問7 問5、問6の回答内容を踏まえてお答えください。

来年度、担当学年においては、どのくらいの頻度で交流するのが適当だと思いますか？ 該当する番号に○を付けてください。(1つのみ)

- ① 1カ月に2回程度
- ② 1か月に1回程度
- ③ 2カ月に1回程度
- ④ 3カ月に1回程度
- ⑤ その他()

問7回答者数 27人



問8 問5、問6、問7の回答内容を踏まえてお答えください。

来年度の交流事業について、何かご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

→別紙参照

— 「小中連携・交流」に関するアンケート —

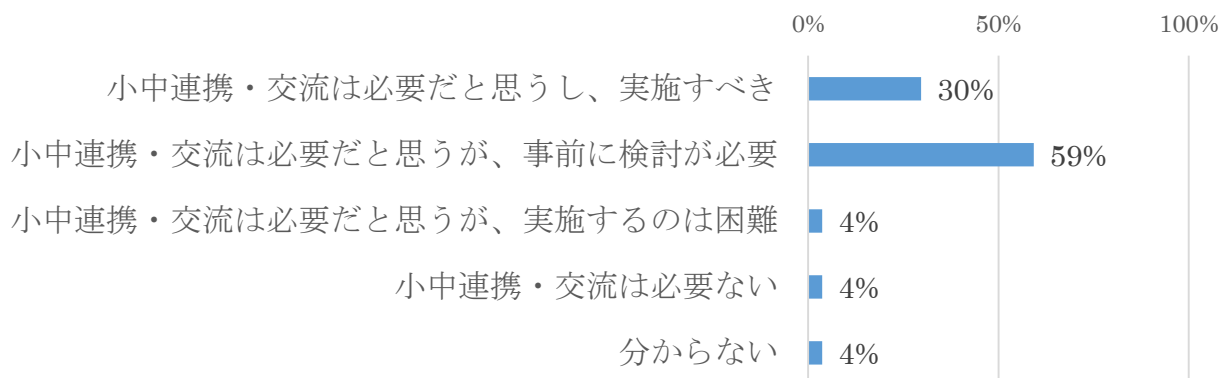
問 9 文科省によれば、中一ギャップを解消するには、小学校から中学校への接続がスムーズにおこなわれる必要から、小中連携・交流が必要であるとされています。

小中連携・交流について、あなたはどのように考えますか？

該当する番号に○を付けてください。(1つのみ)

- ① 小中連携・交流は必要だと思うし、実施すべき →問 10
- ② 小中連携・交流は必要だと思うが、事前に検討が必要 →問 11
- ③ 小中連携・交流は必要だと思うが、実施するのは困難。 →問 12
- ④ 小中連携・交流は必要ない。 →問 13
- ⑤ 分からない

問 9 回答者数 27 人



別紙

問1 回答内容

国語

- 国語(作文発表)
- 国語(埼玉郷土カルタ)
- 国語(郷土カルタ大会)、

社会

- 社会(社会科見学で学習したことの発表)、
- 社会(社会科見学で調べて、まとめたことの発表)
- 社会[社会科見学事前学習、しおり作り[調べたことをまとめ、原稿を書く]、交流を深めながら社会科見学に臨めるよう、歌集づくり[調べた歌詞をもとに原稿を書き、本にする])
- 社会(社会科見学)
- 社会(社会科見学のしおり作り、読み合わせ)

英語

- 英語活動(クリスマスを題材にした授業)、
- 英語(クリスマス特別バージョン歌)・

音楽

- 音楽(合奏発表)
- 音楽(各学校の校歌、川島町音楽祭で歌う歌の合唱、学習済みの曲と一緒に歌ったり、聞きあったりしました)、学級活動(ハロウィンにちなんだゲームをしました。新聞紙でジャックオーランタンを作ったり、ミイラをつくったりしました)
- 音楽(合唱、お互いに鑑賞)、
- 音楽(校歌、歌、リコーダー等によるグループ合奏)
- 音楽(きらきらぼしの合奏、鑑賞)、
- 音楽(歌、合奏[あわてんぼうのサンタクロース、きらきら星]、生活(どんぐりを使ったおもちゃで遊んだ[おもちゃランド])
- 音楽(合奏)、
- 音楽(合奏、リズムアンサンブル[一緒に練習し、教えあって、最後にグループ毎に発表した]、
- 音楽(校歌、リコーダー、合奏)

生活科

- 生活科(「みんなのこうえんであそぼう」平成の森公園に行き、バラ園付近を散策したり、遊具で遊んだりした。)
- 生活科(「つくろうあそぼう」小見野小で育てたサツマイモでリースをつくった。)
- 生活科(「ふゆをたのしもう」豆まきを予定)
- 生活(学校案内、給食準備)
- 生活(みんなであそぼう(秋のもので作ったおもちゃで遊ぶ)、給食準備)

- 生活(自己紹介、学校探検、学校紹介、ダンス、
- 音楽(歌、合奏[あわてんぼうのサンタクロース、きらきら星]、生活(どんぐりを使ったおもちゃで遊んだ[おもちゃランド])
- 生活科(校歌、クラスの歌、豊年踊りの紹介、学校案内)
- 生活(さつまいものつるを使ってクリスマスツリーを作った)
- 生活(クリスマスのリースづくり、小見野小にうかがった)
- 生活科(自己紹介を兼ねたゲーム、クリスマスリース作り)

総合

- 総合(三保谷小とひばりヶ丘の交流で使う用のお店屋さんで一緒に遊んだ。その後、出丸が考案したレクを行った。)
- 総合(フェスティバルの出し物を体験してもらう。)
- 総合(学校案内、自己紹介)、
- 総合(三つ又ビオトープの説明、体験活動)
- 総合(三つ又ビオトープの保護・保全活動)
- 総合的な学習の時間(調べてきたことの発表[三保谷小は、川島について、出丸小はお米について])
- 総合(総合の発表)、

図工

- 図工(はがきサイズのメッセージカードを作成)、
- 図工(ハッピーカードにメッセージを書いて交換し合う)、

特別活動

- 特別活動(自己紹介、ゲーム)

問2 その他 回答内容

- 町バスが来るのを楽しみにしている

問4 その他 回答内容

- ペアやグループを作るときに、配慮を要する児童と誰をペアリングしたらいいのかなどを考えると

問5 その他 回答内容

- 授業時間数の確保も考えた
- 授業時数に余裕がないので実施は厳しいです。特に、5・6年生は必要ないと思います。

問6 回答内容

- 音楽(合唱・合奏)、体育(ボール遊び)
- 学活(交流会)、音楽(合同合唱)、体育(交流試合)、社会(社会科見学事前学習)
- 国語・算数(活動よりも、座学での交流を行い、授業態度等を知るべきである)
- 国語・算数を中心に、体育等、体を動かせる教科も必要。

- 算数(解放の種類が多い単元)、体育(ドッジボール、サッカー、バスケット等、チームで競うスポーツ)
- 社会(社会科見学)、行事(宿泊学習[準備等を含む]、総合(地域の学習))
- 図工(2時間程度で終わって発表できるくらいのもの)、体育(5人くらいのチーム戦で対抗戦など)、国語(作文やパンフレット作りの交流)
- 生活(昔からの遊びやおもちゃランドなどで遊ぶ)、学活(かるた遊びやゲーム大会などをする)、体育(おにあそびやボール遊びをする、音楽(歌や合奏をする))
- 生活・音楽・体育(一緒に活動できるもの)
- 生活・体育(共に時間を過ごす、交流する、ただし人数差が極端なので競うようなことはできない)
- 生活科(「ふゆをたのしもう」かるた大会)、国語・算数(机上での学習をしてもよいかと思う)
- 体育(ゲーム領域、チームが多くなると対戦が増えるのでやりがいがある。音楽については、歌声を響かせ合奏もボリュームが出る(ただし、あらかじめ曲等の相談、打合せが必要))
- 体育(バスケットボールやサッカーなど人数が多くないとできないもの。)
- 体育(ボールを使ったゲーム等、人数が多い方がチーム分けしやすいので。)
- 体育(合同でボール運動など)、音楽(歌や合奏など)、総合(発表会など)
- 体育(心理的に解放しやすく、複数の児童とふれ合えるため。)
- 体育(長縄)、国語(郷土カルタ)、総合(呉汁作り、まこも馬作り)
- 体育(縄跳び高いやドッチボール大会など)
- 体育・音楽(人数が増えると、楽しいと思えるゲームや合奏など)
- 特学なので、交流学級の先生におまかせします。特学は1クラスに異学年がいるため担任は、あまり参加できず、支援員さんに、ほとんどおまかせしているのが現状です。
- 特別活動・体育(楽しく交流できる内容を主にお互いを知る機会を作る)
- 特別支援学級のため、その学年にあわせるしかありません(総合、学習内容の発表)

問7 その他 回答内容

- 1, 2学期各1回、3学期は閉校直前のため)
- 1学期1回、2学期1回
- 1学期毎に1回で年3回
- 2, 3学期に1回程度、年2回程度
- 6年は、統合というより中学で一緒になるので減らしてほしい
- 学期に1回

問8 意見 内容

- お互いの学校の行事日程などに合った日にちで調整できるとよいと思います。(授業内容を充実させるため)
- 学校や学年によって温度差がある。「一任します」というような態度ではなく、両校で意見を交換するべきである。
- 学習と交流どっちが主かわかりにくいので、「教科」として設定するとやりにくい。
- 既に顔や名前、性格などわかっている様子なので、特別な学習を用意せず、国語や算数などの教科を実施してもよいと思った。(学力や学習態度なども見られて良いと思う)
- 給食の配膳・片付けに時間がかかっていたので、良い方法があれば。

- 交流を目的としているなら、それに合ったものを実施したらよいと思う。
- 交流事業の打合せ内容に、特別支援学級の生徒が在籍する場合もあることを念頭に置いてほしいです。2校が合同になると2回の精神的負担が大きいと考えられるため(通常学級の子と違い、一人一人の障がいの重さ、内容も異なるため)です。
- 今年よりもさらに負担になることがないように、高学年ほど時間のゆとりがないと思う。
- 子ども達は、今年度の交流で、ある程度、顔を覚え、言葉をかけ合うようになった。ですから、あまり教員が構えずとも、子ども達は、自然と交流できるようになると思うので、年3回程度が望ましい考える。
- 児童がお互いを知るために交流事業は必要だと思うが、今回2学期に2回の交流は大変だった。また、事前の準備は簡単にと思いつつも、それにかかる時間が多くなってしまった。そのため他の教科の時数確保に影響があった(自己反省も含めて)。来年度は、1回の交流の時間短縮又は、回数を減らしてもよいと思う。特に給食、歯磨きについては、必要かどうか検討していく必要があると思う。
- 授業での交流は、時間や準備の大変さを上回るような効果が児童にはありました。ただ、給食については、大人のように「食べながらコミュニケーションをとる」というのは、小学校では難しく、食べることが中心になりがちです。そのため本来の目的である交流という感じにはならず、もくもくと食べているだけでした。また、物理的に椅子と机の数がない等の問題もあり授業のみの交流の方が良いと感じました。
- 授業を進めなくてはならない、また学校行事もやっていかなくてはならない中での交流会は準備、連絡等がとてみたいへんでした。子供たちはすぐになれ楽しく過ごすことができたので交流会の回数は減らしていただきたいと思う。また給食についてもアレルギー対応の児童について担任(本人のみ)だけの把握でだいじょうぶなのか何かあってからではと心配です。
- 統合されることが決まる前から、統合される学校同士で遠足や社会科見学を合同で行う取り組みが行われていた。時間割や日数の調整の問題を考えると、それらの取り組みに加え、3ヶ月に1回程度交流授業を行う形がよいと思う。配慮を必要とする児童の対応について、両校で共通理解が行えるとよいと思いました。
- 同じ年間計画で進むものはよいが、体育や総合などそろえておいた方がよいものもあると思う。
- 特になし
- 頻度も大事だが、授業中にクラスの友達がどのような反応をするのか、わからない友達へのフォローをどうするのかという、日常の継続的な交流があってもいいかなと思います。単発で授業を行うと、そのような日常的な光景がお互いに見えないので。
- 来年度の6年生については統合時に中学校に入学しているので交流事業の回数は増やさないでいいと思います。

問8 要望 内容

- 3学期は短く卒業式やまとめの学習等もあるので交流はなしにしていきたいと思います。
- なし
- 給食はアレルギーの関係や食数、机の数等手間どう事が多いのでやらなくていい。
- 子ども達は交流会を楽しみにしているようです。少人数よりも多人数で学習する楽しさに気づいているようでした。
- 児童はもう名前と顔は、ほぼ覚えました。そこで、3学期は閉校の準備があるので、交流は1、2学期とも1回ずつ
- 社会科見学等打合せが必要な行事の前に交流事業があると両校の子どもも教職員も共通理解をはかりやすくな

- 特にありません。町教研の部会で話します。
- 特になし
- 平常の授業に差し障りのないように軽度。学校生活が忙しい。6年生で児童の出入りがあることになる期間も集
- 両校の主任同士が年に数回話し合いをしたり、各学校の備品などを見合うなどしたりしたほうが良いと思います。

問 10 その他 回答内容

- 学習の系統性の周知

問 11 その他 回答内容

- 生徒指導等の考え方が、小・中学校では異なるため、職員同士の考え方のギャップを減らすことが大切だと思います。その後、具体的な準備へ。

問 13 その他 回答内容

- 回数などでは計れない。体験入学の日に先輩の姿を見たり、会うだけでも意味がある。卒業生が学校を訪ねて話をしてくれる機会も設けている。